

ていねいな暮らしのあつたころ

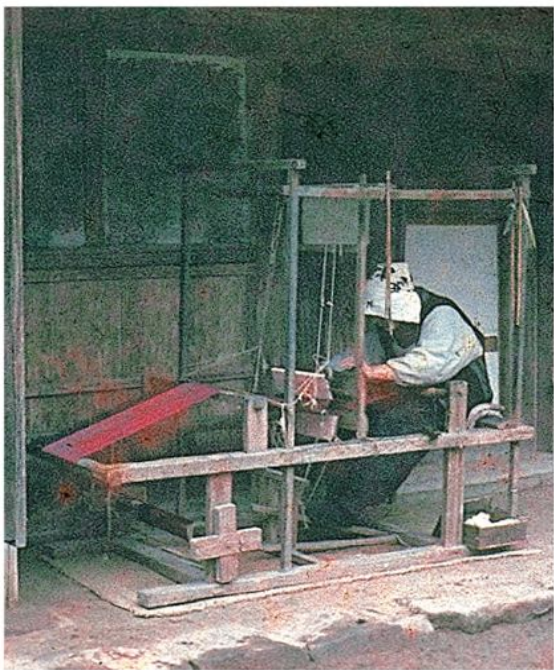
佐野二彦の撮った伊深の里山



「蚕飼いの網」 昭和40年8月1日撮影

「生糸と真綿」

養蚕は、全国的にみると大正期から戦前までがピークでしたが、美濃加茂では昭和50年代ごろまで広く行われていました。伊深は、ほかの美濃加茂市域に比べ、規模は大きくありませんでしたが、農作業が少ない夏の閑散期を中心に養蚕を行いました。繭まゆは古井くんげにあった郡是製糸ぐんぜに売り、現金に換えました。



「はたおり」 昭和38年3月16日撮影

出荷できない繭は、生糸にして自家用に使いました。鍋に湯をはり、繭を浮かせて坐繰機ざぐりきで糸を引くことは、女性の仕事の一つでした。できた生糸で子どもたちの一張羅の着物を「ハタゴ」で織りました。古井あたりでは「大梓」などの大型の道具を使って生糸を作り、商人に売る農家もありました。

また、サナギが二つ入った玉繭も出荷できましたでしたが、真綿を作り、布団やはんてんに綿を入れました。